栗野町稲葉崎の供養塔群

【所　在　地】姶良市湧町水稲葉崎 330 － 3
【種　　別】県指定史跡
【指定年月日】昭和 41 年３月 11 日

湧水町役場より北へ約４ km，国道 268 号線の東側の小高い丘の上にある供養塔群で，南北朝時代（14 世紀）の建立である。暦応２（1339）年７月 13 日造立の銘のある３ m 余の大板碑を中心に，板碑が 13 基集められ，さらにその前面には無数の五輪塔が集積されている。これらの石碑・石塔類は『栗野村旧跡礼帳』に「黄金塔」と記され，すでに江戸時代から大切にされていたことがわかる。

〈参考〉

●板碑　板石塔婆のことで，多くは平らな長い石で，頂部を三角形に切り，上部に２・３本の横線を刻みこむ。中央上部に梵字などを刻み，下部には仏像などを彫ることもある。中世，死者の追善供養や生前の逆修供養のために建てることが多い。

●梵字　古代インドの言語サンスクリット語を表わす文字。これが中国を経て日本に伝わり，真言密教で重視され，仏陀その他のシンボルとして用いられている。